



苫小牧市立明倫中学校  
新入生保護者説明会  
学校だより特別号  
令和5年1月24日

## 伝えたいこと

校長 遠藤 玲

**子どもたちの幸せ、いっしょに悩み・考え・やっていきましょう！！**

本日は明倫中学校新入生保護者説明会にご来校いただき、ありがとうございます。  
校長の遠藤 玲（えんどう あきら）と申します。明倫中学校3年目になります。よろしくお願いします。

さて、本校は4月新入生128名が入学してくれる予定です。保護者の皆さまが、これまで、手塩にかけ大事に育ててきた大切な宝物をお預かりすることになります。明倫中学校の3年間でさらに磨きをかけて、次のステージ、そして将来厳しい社会を生き抜ける力を身に付けさせるのが明倫中学校・私たちの役目と考えております。子どもたちの幸せのために、いっしょに悩み、考え、やっていきましょう。

この場をお借りして、私から1点伝えたいことがあります。

校長としてより、3人の子どもの父親として感じたことです。校長の子どもだから、「優秀でしょ」なんて思うかもしれませんが、そうではないことを強く言っておきます。

これからお話しすることが正しいことか、どうかはわかりません。ご自身で判断してください。

それは、「**中学校生活3年間は親子にとって、かけがえのない・貴重な時間**」であることです。本校の卒業生の進路はほぼ100%高校へ進学します。高校に行くと、家族で過ごす時間、子どもと何気ない会話をする時間がほんとうに少なくなりました。子どもが成長している証だと考えれば、喜ばしいことですが、親としては寂しいものです。

中学校ではどうか？まだまだ学校のことや友達のことを話したり、いっしょに買い物や旅行にいったりできることは多いはずです。

**「どうか、たくさん話を聞いて、たくさん寄り添ってあげてください」**

それができる最後の3年間であると私自身が強く感じております。

**ただし、保護者の理想・価値観を追求することで不幸にならないでください。**

中学生も一人の人間です。中学生といえども、生きていくことは大変なことです。現実学校に行けなくなったり、問題行動を起こしたり、いじめの問題に巻き込まれたりする可能性もあるのが中学校です。それをどう乗り切るか、その力を育むことも将来のためには必要です。中学生ですので、失敗もあって当たり前です。

取り返しのつかない失敗はさせない、失敗は学びに変えることが私たち大人の役目ではないでしょうか。私の話を聞いて、不安・心配が増した保護者の方もいるかもしれませんが、結論です。

**いろいろなことがあるのが中学校です、だからこそ、子どもと向き合い、自分で考えさせ、判断し行動させる貴重な・かけがえのない3年間、保護者としても、大いに楽しんでください、ということです。**

私たち学校も誠心誠意、応援させていただくことをお約束します。

4月10日（月）入学式にて、再び皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

## お渡しした資料にご不明な点があれば、遠慮なく明倫中学校までご連絡願います

特に、初めてお子様が中学校入学を迎える方は、とっても心配ではないでしょうか？  
こうした不安や心配を少しでも軽減し、4月入学式を迎えていただきたい  
のが、私たちの願いでもあります。（個別相談会には14名来校してくれました）

今後も相談や質問・問い合わせは、教頭 新倉（にいくら）が対応します。

※下記は私が目指すべき子どもたちとの関わりです。親を私たち教職員に置き換えます。

### 子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる  
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない  
褒めてあげれば、子どもは明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛する事を学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる  
分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもはやさしい子に育つ  
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
和気あいあいとした家庭で育てば、  
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

「子どもが育つ魔法の言葉」（PHP研究所）

ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス／石井 千春＝訳 より

●親（教師）が「こうあらねばならない」、理想の姿の追求することが、親子（学校）の  
幸せに結びつくかという、必ずしもそうではない。（あくまでも私見）

- 「不幸にならないで」「不幸になるような理想はいらない」  
子どもたちと過ごせる幸せな時間を、辛い時間にする必要はありません。  
勝手に理想を掲げて、勝手に不幸になってはいけません。

「貴重な・かけがえのない時間」最後の3年間と考えていただきたい。

※先が見えない時代、正解が1つではない時代（多様性）

**「自分で考え、判断し、行動する力」を身に付けさせたい！！**

